

## 野本 紗愛弥 外国語学部 中国語学科 2年

東京都立日野高等学校出身  
2023.4 拓殖大学入学  
2024.9 台湾長期研修参加



ルームメイトと

## 私の台湾留学生活

## 【寮生活について】

私たちは外国人寮で生活していたので様々な国の人と関わることができました。例えば、私のルームメイトは日本人一人とマレーシア人二人でした。マレーシア人の二人はどちらもイスラム教徒だったので、一日に五回お祈りをします。夜明けごろや外出中にもお祈りをするので当初は困惑しましたが、すぐに慣れました。また、豚肉やお酒は食べられないので、外食するときは注意を払っていました。イスラム教徒向けの「ハラール食品」はとてもおいしくて、私もたまに食べていました。寮には、スウェーデンやスロバキアなどから留学に来ている人もいて、各国で食べられている家庭料理を振舞ってくれたりしたこともありました。国によって文化や季節のイベント、固定概念がまるで違うので雑談がとても楽しかったです。彼らは積極的に日本語の勉強に励んでいて、見かけるたびに「おはよう！」と日本語であいさつをしてくれるので、あたたかい気持ちで一日を始められることができた朝の光景は本当にいい思い出です。

## 【小旅行について】

旧正月（春節）期間に台湾南部に旅行に行きました。高雄市、台中市、台南市に行きましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。高雄市は、海沿いに倉庫をリノベーションしたモダンなお店が並んでいて、若者たちでにぎわっていました。きらびやかなイルミネーションや、海風を感じながら料理を楽しむことができるレストラン、お土産屋さんがたくさんあり、とても楽しかったです。台中市では、フリーマーケットに足を運びました。食べ物から手作りのアクセサリ、小物、古着、香水などが売っていました。私はそこでかんざしを購入しました。かんざしを使ったことがなかったので、とても新鮮で使うたびに胸がときめきます。台南市はとにかく現地の



台中市のフリーマーケット

人々が優しくてあたたかかったです。お店で私たちがご飯を食べているとき、店員さんが気さくに話しかけてくれて、簡単な日本語を交えて笑わせてくれたりしました。また台南のご飯は優しい味付けで日本人が食べやすいものが多い印象です。今回は春節期間の旅行だったため、日本では絶対に味わうことができない、活気にあふれた貴重な期間を三都市で過ごすことができ、とても良い経験になったと思います。

## 【研修を通して得たことと、その成果を今後の学生生活や社会へどのように還元するか、について】

留学生活は私にとって容易なものではなく、いくつもの困難がありました。台湾にきてすぐの頃は、リスニング力が乏しくて買い物や外食時に店員さんとうまくコミュニケーションが取れないことが当たり前でした。食べ物や環境、天気も日本と異なり体調がすぐれない日々が続いたり、カルチャーショックを受けて絶望的な気持ちになることもありました。それだけでなく、授業についていけず、留学を決めたことを少し後悔することもありました。しかし、留学を決心したのは紛れもない自分自身なので、責任をもってこの状況を乗り越えようと決心しました。その結果、「逃れられないのなら立ち向かうしかない、いっそのこと楽しもう！」というタフなメンタルを手に入れました。シャワーからお湯が出ない日があっても、小学校のプール授業を思い出したり、課題の作文も少し面白おかしく書いて、先生に突っ込んでもらおうとしたり、とにかく全部楽しもうとしました。これから先、私には多くの壁が待っているかもしれませんが、それでも、留学で得たこのマインドを生かしてたくましく乗り越えていきたいです。



賑わう夜市